

2023年度

科目名称	基礎整復技術実習
授業コード	AF169
英語名称	Laboratory study in Basic Reposition-Technique 3
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	杉浦 加奈子 (医療科学部), 舟喜 晶子 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では柔道整復師が行う後療法（手技療法、運動療法、物理療法）の理論を理解し、基本的な技術を習得することを目的とする。また実践的な学びを通し、他者を思いやる心や自ら役割を見出す力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は後療法（手技療法、運動療法、物理療法）についての実践的科目である。接骨院での実務経験豊富な教員（杉浦、柔道整復師）と整形外科やスポーツ現場での実務経験のある教員（舟喜、柔道整復師）による講義を通して、幅広い分野で活躍する柔道整復師を目指すために必要な知識および実技を教授する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「科学的根拠に基づいて評価・判断し、幅広い知識を身につけ、複合的な視点から知識を統合し問題解決にあたることができる」ことを目指し、柔道整復学実技の基礎となる柔道整復学理論のうち、後療法の概要について理解すること、またその基本的実技を習得することを目標とする。
計画・内容	<p>第1回：手技療法（概説・軽擦法の理論と実技）/運動療法（概説・関節の運動方向） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第2回：手技療法（強擦法の理論と実技）/運動療法（筋のしくみ・筋力の評価） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第3回：手技療法（揉捏法の理論と実技）/運動療法（関節可動域訓練の概説） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第4回：手技療法（叩打法の理論と実技）/運動療法（下肢の関節可動域訓練・筋力増強訓練） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第5回：手技療法（振戦法の理論と実技）/運動療法（上肢の関節可動域訓練・筋力増強訓練） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第6回：手技療法（圧迫法の理論と実技）/運動療法（体幹の関節可動域訓練・筋力増強訓練） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第7回：手技療法（伸長法の理論と実技）/運動療法（持久力訓練・バランス訓練） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第8回：手技療法（まとめ）/運動療法（まとめ） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第9回：物理療法（概説・寒冷療法・温熱療法の理論と実技1） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第10回：物理療法（電気療法・光線療法の理論と実技） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第11回：物理療法（温熱療法の理論と実技2） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第12回：物理療法（牽引療法・その他の物理療法）</p>

2023年度

<p>計画・内容</p>	<p>担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第13回：物理療法（超音波・まとめ） 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第14回：後療法のまとめ 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p> <p>第15回：総括 担当教員 杉浦（柔道整復師）・舟喜（柔道整復師）</p>
<p>授業の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・座学で理論を理解した後、実技を行う。 ・理論の説明には教科書の内容をもとに適宜視覚教材やその他の参考資料を用いて理解を促す。 ・実技では理論をもとにペアあるいはグループにて相互に手技療法、運動療法、物理療法を施しながら実践的に学ぶ。 ・臨床での留意点や理論と異なるポイント等について教員がアドバイスを行う。 ・理解度、技術習得の確認のために各療法のまとめとして中間確認テストを行う。 状況により、理解度を確認するため小テストを行う場合あり。
<p>能動的な学びの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後療法について、グループディスカッションやグループワークにて、それぞれの考えをまとめ、実技の練習に取り組む。
<p>授業時間外の学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に予め該当箇所の教科書やその他の参考資料を参照し、不明な用語等があれば調べておくこと。 ・授業後には各回の内容を見直し、自主ノートを作成する等して理解を深めること。 ・課題に取り組むこと。 <p>（1コマにつき予習2時間程度、復習2時間程度×30コマ＝合計120時間程度）</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>教科書 柔道整復学・理論編改定第7版（公益社団法人全国柔道整復学校協会監修）南江堂 2022年 解剖学（公益社団法人全国柔道整復学校協会監修）南江堂 2017年</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>以下の3項目により総合的に評価する。 期末試験：90%〔実技(ロールプレイング形式)：45%/筆記試験：45%〕 小テスト：10%</p> <p>期末試験では、実技試験の60%以上、筆記試験の60%以上の両方の基準を満たすこと。</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、コメントをフィードバックする。
<p>オフィスアワー</p>	<p>CampusSquareを参照</p>
<p>留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目であるため真摯に取り組むこと。 ・身だしなみには注意をはらうこと（ケーシー・白衣を着衣、室内履きの着用）。 ・接触アレルギー、疾病、怪我等、教員が予め把握しておかなければならないことは、申し出ること。（個人情報厳守する） ・学内、学外問わず違法および危険な施術行為は行わないこと（学生間も含む）。 ・感染予防対策について教員の指示に従い、各自気を付けること。
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・zoomによるオンライン授業と課題学修の組み合わせを行う。 <p>2020年度 理論はzoomにて実施、最低限の実技を感染対策をとったうえで対面にて実施</p> <p>成績評価方法と基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験：70% ・実技(一人で可能な実技・口頭試問をオンラインで審査)：35% ・筆記試験(グループフォーム)：35% ・課題：30% <p>期末試験では、実技試験の60%以上、筆記試験の60%以上の両方の基準を満たすこと。</p>

2023年度

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	
------------------------------------	--